


様式 1

橋梁名・所在地・管理者名等		路線名	所在地	起点側	緯度 経度	〇° x' Δ" □° ▽' ◎"	橋梁ID
橋梁名		県道〇〇	〇〇県△△市□□地先				
〇〇橋 (フリガナ) マルマルバシ							
管理者名		定期点検実施年月日	路下条件	代替路の有無	自専道or一般道	緊急輸送道路	占用物件(名称)
〇〇県〇〇振興局〇〇土木事務所		2013.5.〇	市道	有	一般道	二次	水道管

部材単位の診断(各部材毎に最も厳しい健全性の診断結果を記入)				定期点検者 (株)〇〇 △△ □□	
定期点検時に記録				応急措置後に記録	
部材名	判定区分 (I ~ IV)	変状の種類 (II 以上の場合 に記載)	備考(写真番号、 位置等が分かる ように記載)	応急措置後の 判定区分	応急措置及び 判定実施年月日
上部構造	II	腐食	写真1、主桁02	I	2013.5.〇
横桁	II	腐食	写真1、横桁02	I	2013.5.〇
床版	III	ひびわれ	写真2、床版01	II	2013.5.〇
下部構造	I				
支承部	I				
その他					

道路橋毎の健全性の診断(判定区分 I ~ IV)	
定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
III	(適切に記載する)

全景写真(起点側、終点側を記載すること)		
架設年次	橋長	幅員
1984年	107m	11.8m
橋梁形式		
〇往間連続鋼〇桁橋、〇式橋台2基、〇式橋脚2基		





※架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

様式 2

状況写真(損傷状況)

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。
○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

<p>写真1</p>	<p>上部構造(主桁、横桁)【判定区分: Ⅱ】</p>  <p>主桁02、横桁02</p>
<p>写真2</p>	<p>上部構造(床版)【判定区分: Ⅲ】</p>  <p>床版01</p>
<p>支承部【判定区分: 】</p>	<p>下部構造【判定区分: 】</p>

(1)解説

本様式は定期点検における健全性の診断結果や措置の内容に関する最小限の情報を記録することを想定しています。

そのために、本様式を使用する際の注意点の例を以下に示します。

(例)

- ・道路橋全体の健全性の診断に直接関係する不具合がわかるように、橋の状態を代表する写真を添付することが考えられます。
- ・緯度経度情報を入れておき、これをI.D.番号に変換することで、I.D.番号がわかれば、電子地図などで位置が確認できるようになります。また、当該道路橋の関連図書については同じ橋梁IDを含むように電子化することで、図書の検索を容易にするなど工夫につながることが期待されます。このI.D.番号を様式では「橋梁ID」と称しています。
- ・管理者毎に施設番号を決めているときには、I.D.番号とは別に、施設番号の欄を作ることを想定しています。この施設番号を様式では「橋梁コード」と称しています。
- ・道路橋毎の健全性の診断の欄には、橋の健全性について変状の状態、措置の目的や切迫性についての定期点検を行った者の所見を記録したり、健全性の診断の区分を記録したりすることを想定しています。
- ・この様式例で想定している措置は、応急措置です。応急措置を行った箇所や内容、行う前の状態や健全性の区分も記録しておくことで、次回の定期点検やその他維持管理の参考になります。この様式例では、監視や対策などの措置の記録は別途行うことを想定しています。なお、法令のとおり、措置を講じたとき道路管理者はその内容を記録し、当該道路橋が利用されている期間中はこれを保存する必要があります。ただし、記録の内容や項目、様式等については法令上定めがなく、定期点検の記録と同様に各道路管理者が定めるものです。

総括記録

記録様式(その1)

起点側	緯度	終点側	緯度	橋梁ID
	経度		経度	

橋梁名・所在地・管理者名等

フリガナ 橋梁名			県道〇〇	〇〇県		橋梁コード
所在地	自	至	距離標	管理者	〇〇振興局	調査更新年月日
架設年次	橋長		幅員	橋梁形式	〇〇土木事務所	定期点検実施年月日

部材単位の診断(各部材毎に最悪値を記入)

定期点検時に記録			定期点検者			(株)〇〇 △△ □□
部材名	判定区分 (Ⅰ～Ⅳ)	変状の種類 (Ⅱ以上の場合に記載)	備考 (写真番号、位置等が分かるように記載)			
上部構造	主桁	剥離・鉄筋露出	写真1、部材番号〇			
	縦壁(右)					
	縦壁(左)	ひびわれ	写真2、部材番号〇			
下部構造(ワーチング)						
翼壁						
その他						

道路橋毎の健全性の診断(判定区分Ⅰ～Ⅳ)

定期点検時に記録	
(判定区分)	(所見等)
Ⅱ	(適切に記載する)

躯体寸法及び全景写真(起点側、終点側を記載すること)

			
	<p>＜起点側＞</p> <p>＜内空＞</p> <p>＜終点側＞</p>		

※構造形式は多径間で橋種が異なる場合は、橋種を全て記入する(○径間鋼板桁+単純鋼箱桁)。橋長は橋種の順に記載する(〇m+〇m)。架設年次が不明の場合は「不明」と記入する。

部材番号図

記録様式(その2)

起点側	緯度	起点側	緯度		橋梁ID
	經度		經度		

橋梁名・所在地・管理者名

フリガナ 橋梁名		路線名	県道〇〇	管理者	〇〇県〇〇振興局〇〇土木事務所	橋梁コード

部 材 番 号 図						

損傷図

記録様式(その3)

フリガナ 橋梁名		路線名		県道〇〇		管理者		〇〇県〇〇振興局〇〇土木事務所		橋梁コード	
橋梁名・所在地・管理者名											
起点側	緯度	緯度	終点側	緯度	緯度						
	経度	経度		経度	経度						
橋梁ID											

損傷場所の記録図

径間番号1	径間番号1
<p>頂版</p>	<p>側壁・左</p>

○診断根拠とした、主要な損傷を記載する。

損傷写真及び判定結果

【様式】 B - 4


記録様式(その4)

起点側	緯度	終点側	緯度	橋梁ID
	経度		経度	

橋梁名・所在地・管理者名

フリガナ 橋梁名	路線名	県道〇〇	管理者	〇〇県〇〇振興局〇〇土木事務所	橋梁コード
-------------	-----	------	-----	-----------------	-------

健全度判定

写真番号	径間番号	部材名	主桁	部材番号
損傷の種類	剥落・鉄筋露出			
写真番号	径間番号	部材名	部材番号	部材番号
損傷の種類				
損傷写真				
損傷写真				
所見	(適切に記載する)			
所見	(適切に記載する)			
部材単位の健全性の診断	II			
部材単位の健全性の診断	III			

○部材単位の判定区分がII、III又はIVの場合には、直接関連する不具合の写真を記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

○診断根拠とした、主要な損傷を記載する。

(1)解説

本様式は様式Aに加え、道路橋の健全性の診断において着目した変状について、俯瞰的に把握できるスケッチを残したり、写真とともに種類や寸法・範囲の概略を残すことで、次回の定期点検や以後の調査等に引き継ぐことを想定しています。

本様式を実際に使用するとき想定される注意点の例を以下に示します。

- (例)
- ・B-2様式は、部材単位で状態や健全性の診断の区分を行うことを想定したものです。
 - ・部材番号を決め、その番号に紐づけて部材の種類や材料、変状の種類や健全性の診断区分を記録すると、定期点検調書を後日活用するときに有用であると考えられます。
 - ・B-3 様式は、必要な記録を目的にかなう方法で残すための欄として想定しています。例ではスケッチを入れていますが、スケッチにこだわる必要はありません。たとえば、既存の写真にコメントを入れて貼り付けておくことなども考えられます。
 - ・B-4 様式は、主要な部材種別単位ごとに、道路橋全体の診断根拠（Ⅰ～Ⅳ）とした証拠となる代表的な変状を例示することを想定しています。たとえば写真は、直接関連する不具合の場所や種類、不具合の程度がわかるものを添付することを想定しています。所見欄は損傷種類や程度、要因、健全性の診断の根拠を記載する欄として想定しています。すべての変状毎に写真を求めるのであれば求める記録の目的や水準に応じて、たとえばD-2 様式と組み合わせて使うなどの利用上のバリエーションが考えられます。

定期点検記録様式(その1) 橋梁の諸元と総合検査結果

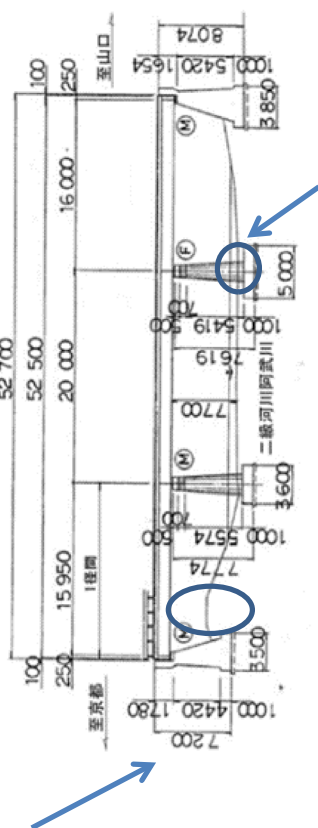
フリガナ 橋 梁 名	マルマルバシ 〇〇橋						路 線 名	県道〇〇		緯度 〇〇〇〇 経度 〇〇〇〇		起点側	緯度 〇〇〇〇 経度 〇〇〇〇		終点側	緯度 〇〇〇〇 経度 〇〇〇〇		橋梁ID	〇〇〇〇				
所 在 地	自	〇〇県〇〇市〇〇地先							距 離 標	自	〇〇〇 k 〇〇〇							管 轄	〇〇		県	橋梁コード	〇〇〇〇
	至	〇〇県〇〇市△△地先								至	〇〇〇 k 〇〇〇								〇〇				
供用開始日	〇〇年〇〇月〇〇日		橋長	1,000m		活荷重・等級	T L - 2 0 等橋		適用示方書		昭和55年道路橋示方書									調 査 年	20〇〇		
上部構造形式			〇〇径間連側〇〇桁橋		幅員	全 幅 員	〇〇	地覆幅	歩道幅	車道幅	車線	車道幅・車線	歩道幅	地覆幅	中央帯	中央分離帯	交通条件	交 通 量	〇〇 台				
下部構造形式						有 効 幅 員	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇				〇〇	〇〇	大型混入率	〇〇 %
基礎形式			〇〇式橋台○基、〇〇式橋脚○基		備 考	①前回判定区分：前回点検、2010年：Q判定、②主な点検方法：第1登欄：梯子、第2登欄：橋梁点検車、支承部：表欄なしで近接可、③主な付属物：100系大型欄干1基PI付近より車線側（管理者：国土交通省）、遮音壁（全線設置、管理者：国土交通省）、④踏下条件：〇級河川〇〇川（管理者：〇〇県〇〇土木事務所）、⑤代替路の有無：200m上流に県道（大笠山通行困難）、⑥添築物：照明ケーブル1袋、水道管（φ300本体管：管理者△△市）、⑦補修：相須歴：2012年：耐震補強（H8指示）、2013年：第三者被害予防措置点検後、⑧近接目視不可部位：GZ.G3主桁端部及びひ固支承部（落橋防止装置設置のため）、⑨第三者被害予防措置点検必要の有無：有り（第1登欄）											荷 重 制 限	- t					
健全度 (橋単位)			Ⅲ			定期点検者 (株)〇〇 △△ □□																	

総合検査結果

(適切に記載する)

定期点検記録様式(その2)	径間一般図	径間番号	〇〇
プリガナ 橋梁名	マルマルバシ 〇〇橋	路線名	県道〇〇
		管理者	〇〇県〇〇振興局〇〇土木事務所
		橋梁コード	〇〇〇〇
		起点側	緯度 経度
		終点側	緯度 経度
		橋梁ID	〇〇〇〇 〇〇〇〇
			〇〇〇〇 〇〇〇〇

必要範圍

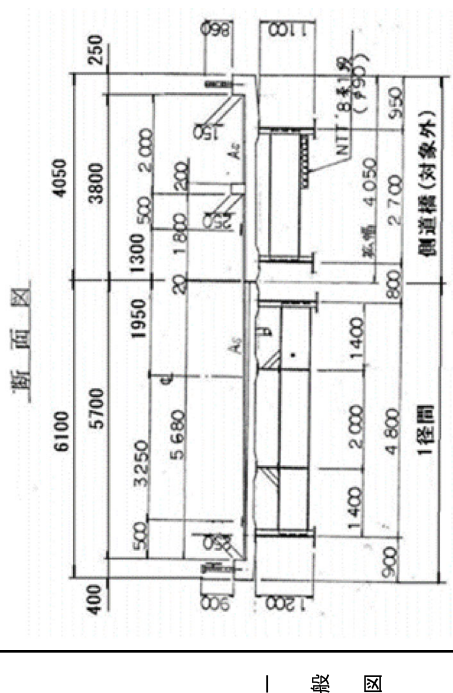


全体図：表示内容（可能な範囲で追加）

橋梁前後の堤防、地質等一々、路上状況の詳細（最新の河床状況、HWL、干潮区間であれば満潮時の水位、道路の場合下高等）
 調査路の設置状況、点検にあたっての梯子等設置位置
 その他点検、診断に必要な情報

近接目視未実施

図面作成年月日:1985年頃 2012耐震補強工事内容未反映 基礎情報なし 河床状況未変更 地質縦断等なし








図面作成年月日：2012年度〇〇橋耐震補強工事

図面作成年月日：1994年度敷地調査業務

① 柵下への進入路：100m上流に河川管理通路入り口
侵入には、河川管理者への連絡が必要
管理者：〇〇県〇〇土木事務所
② 路肩に余裕1台程度なら駐車可

○全体図、一般図には近接目視による診断が行えていない箇所を明記すること。

定期点検記録様式(その3) 現地状況写真				経 間 番 号		緯 度		経 度		緯 度		経 度		緯 度		経 度	
				経 間 番 号		緯 度		経 度		緯 度		経 度		緯 度		経 度	
フリガナ 橋 梁 名	マルマルバシ 〇〇橋			路 線 名		県道〇〇		管 理 者		〇〇県〇〇振興局〇〇土木事務所		橋 梁 コー ド		〇〇〇〇			
写真番号	1	撮影年月日	〇〇年〇〇月〇〇日	写真番号	2	撮影年月日	〇〇年〇〇月〇〇日	写真番号	3	撮影年月日	〇〇年〇〇月〇〇日						
径間番号	〇〇	径間番号	〇〇	径間番号	〇〇	径間番号	〇〇	径間番号	〇〇	径間番号	〇〇						
橋梁正面 手前：至 〇〇 起点側、奥：至 〇〇 終点側 ・橋梁直上は、交差点範囲内				橋梁側面 ・海岸に近接しており、下部工の6～7割(写真中水跡部)は、満潮時に海面下となる。				P2橋脚付近高所作業車による点検状況(遠景) ・P2橋脚付近は、交通島があり、高所作業車の設置に規制は要しなかった。									
写真番号	4	撮影年月日	〇〇年〇〇月〇〇日	写真番号	5	撮影年月日	〇〇年〇〇月〇〇日	写真番号									
径間番号	〇〇	径間番号	〇〇	径間番号	〇〇	径間番号	〇〇	径間番号									
橋台目視可能範囲 ・落橋防止装置が設置され、耳桁部以外の桁端部及び脊座に近接出来ない状況となった。桁端部の目視点検には、CODカメラ等の機器が必要。				起点側橋台付近へのアクセスルート 浄水場と、田畑への進入路となっており、交通量は少ない。A1橋台付近は2～3台が駐車可能。河川管理用道路と思われる。常時停車可													

現 地 状 況 写 真

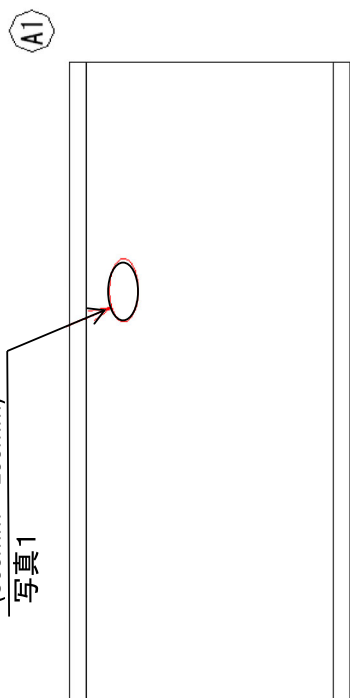
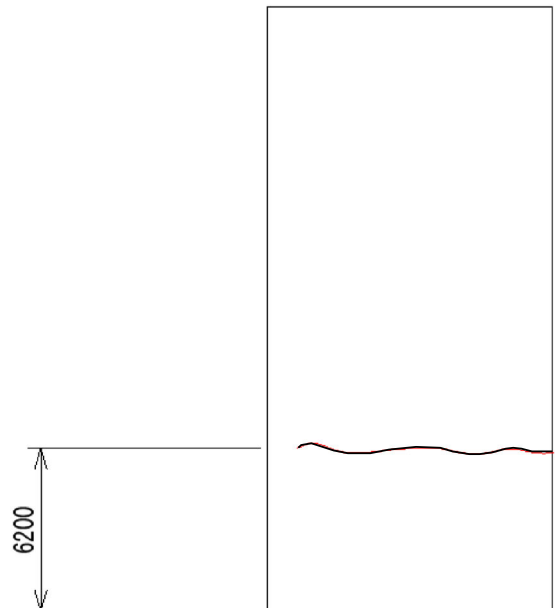
定期点検記録様式(その4) 部材番号図		径間番号		00		起点側		緯度 経度		0000 0000		終点側		緯度 経度		0000 0000		橋梁ID		0000	
フリガナ 橋梁名		マルマルバシ 00橋		路線名		県道00		管理者		00県00振興局00土木事務所		橋梁コード		0000							

定期点検記録様式(その5) 状態把握の方法		径間番号	起点側		緯度 経度		終点側		緯度 経度		橋梁ID	
フリガナ 橋梁名	マルマルレバン 〇〇橋	路線名	県道〇〇	管理者	〇〇県〇〇振興局〇〇土木事務所		橋梁コード		緯度 経度		緯度 経度	
近接目視による状態の把握が不可能な箇所												
部材番号		部材番号		不可能な理由		対応策						
支承部		支承	〇〇〇〇	落橋防止装置が設置され、桁端部及び沓座に近接し、目視確認できない。		沓座は周辺状況等から判断できないため、CCDカメラにより状況を確認する。						

〇近接目視又は打音、触診ができない箇所を記載する。現状の評価、日常の維持管理での注意点を記載する。

定期点検記録様式(その6) 旗揚げ図				径間番号		00		起点側		緯度 経度		緯度 経度		終点側		橋梁ID		0000	
フリガナ 橋梁名		マルマルハシ 000橋		路線名		県道00		管理者		00県00振興局00土木事務所		橋梁コード		0000		0000		0000	

損傷場所の記録図

径間番号1		径間番号0																																	
<p>ボックス(主桁)</p> <p>主桁 Mg0101 ⑦剝離 (300mm × 100mm) 写真1</p>  <p>(A1)</p> <p>(A2)</p> <p>縦壁 Ac0101 ⑥ひびわれ (15.0mm) l=4100 写真2</p>  <p>6200</p>																																			
<p>損傷の凡例</p> <table border="1"> <tr> <th>損傷の種類</th> <th>表示</th> </tr> <tr> <td>ひびわれ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>剝離</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋露出</td> <td></td> </tr> <tr> <td>遊離石灰</td> <td></td> </tr> <tr> <td>漏水</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>うき</td> <td></td> </tr> </table>		損傷の種類	表示	ひびわれ		剝離		鉄筋露出		遊離石灰		漏水		その他		うき		<p>損傷の凡例</p> <table border="1"> <tr> <th>損傷の種類</th> <th>表示</th> </tr> <tr> <td>ひびわれ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>剝離</td> <td></td> </tr> <tr> <td>鉄筋露出</td> <td></td> </tr> <tr> <td>遊離石灰</td> <td></td> </tr> <tr> <td>漏水</td> <td></td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td></td> </tr> <tr> <td>うき</td> <td></td> </tr> </table>		損傷の種類	表示	ひびわれ		剝離		鉄筋露出		遊離石灰		漏水		その他		うき	
損傷の種類	表示																																		
ひびわれ																																			
剝離																																			
鉄筋露出																																			
遊離石灰																																			
漏水																																			
その他																																			
うき																																			
損傷の種類	表示																																		
ひびわれ																																			
剝離																																			
鉄筋露出																																			
遊離石灰																																			
漏水																																			
その他																																			
うき																																			

○診断に直接考慮した、健全性の根拠となる損傷を記載する。

定期点検記録様式(その7) 損傷写真及び判定結果															
フリガナ 橋梁名	マルマルバス 〇〇橋			路線名	県道〇〇	径間番号	〇〇	起点側	緯度 経度	〇〇〇〇 〇〇〇〇	終点側	緯度 経度	〇〇〇〇 〇〇〇〇	橋梁ID	〇〇〇〇
管理者	〇〇県〇〇振興局〇〇土木事務所			橋梁コード		〇〇〇〇									

健全度判定

写真番号	径間番号	部材名	部材番号
損傷の種類	剥落・鉄筋露出		
(例)			
損傷写真			
(適切に記載する)			
所見			
今回判定	部材毎の対策区分判定	部材毎の健全性の診断	
前回判定	部材毎の対策区分判定	部材毎の健全性の診断	

○部材単位の判定区分がⅡ、Ⅲ又はⅣの場合には、直接関連する不具合の写真に記載のこと。

○写真は、不具合の程度が分かるように添付すること。

○診断根拠とした、主要な損傷を記載する。

定期点検記録様式(その8) 健全性の診断総括表									
フリガナ 橋 梁 名	マルマルバシ 〇〇橋	路 線 名	県 道 〇〇	起 点 側 緯度 経度	〇〇〇〇 〇〇〇〇	終 点 側 緯度 経度	〇〇〇〇 〇〇〇〇	橋 梁 ID	〇〇〇〇
フリガナ 橋 梁 名		路 線 名	県 道 〇〇	管 理 者 〇〇県〇〇振興局〇〇土木事務所	橋 梁 コー ド		〇〇〇〇		
部材毎の健全性の診断									
部材名		部材番号	損傷の種類	写真番号	部材毎の判定区分				
上部構造					II				
下部構造									
支承部									
その他									
〇診断根拠とした、損傷を記載する。									

(1)解説

本様式は、道路管理者がたとえば、定期点検時点毎の橋の状態を経時的に比較すること、措置のための調査等を行うにあたって有用な情報となるように、部材単位でも健全性の診断の記録を遺すことを想定しています。


本様式を実際に使用するとき想定される注意点の例を以下に示します。


- (例)
- ・ 現地の条件等によっては、外観の確認が困難な部材もあり得ます。そこでC-5様式では、近接目視や必要と考えたにもかかわらず打音及び触診が実施できなかった場合にその理由を、備考欄に記録として残すことも想定しています。たとえば実際の目視対象位置までの距離を大まかでよいので記録に残すなど、後日調書を見る第三者が健全性の診断結果を理解する前提条件として知っておくべき事項を書き込んでおくといでしょう。
 - ・ 総合検査結果は、A-1 様式や B-1 様式の道路橋毎の健全性の診断（所見等）の欄と同様に、橋としての健全度の評価判定に至った経緯を記載する欄として想定しています。たとえば、損傷部位種類の概況や性状、現状の本体安全性に関する見立てについての所見、進行性についての所見、必要な措置の観点と切迫性を記載することを想定しています。
 - ・ C-2 様式は、当該橋梁へのアクセスルートや梯子の設置位置等を記載する欄としても想定しています。たとえば、災害時等の速やかな緊急点検や応急復旧の計画策定が容易になることにも寄与すると考えられます。
 - ・ C-5 様式は、現地の条件等によっては、近接目視や必要と考えた打音及び触診が実施できなかった時に、実施できなかった理由及び代替方法を記録として残す欄として想定しています。
 - ・ C-6 様式は、様々な変状が色々な部材に確認された中で、部材単位の診断結果がⅡ～Ⅳの損傷箇所について記録することを想定しています。たとえば、写真や所見と照合に必要な情報であればよく、手書きでも構わないものです。
 - ・ C-7 様式は、部材単位でも診断結果（Ⅱ～Ⅳ）の根拠となる損傷の範囲や状況の写真を径間毎に整理する欄を想定しています。なお、所見には、たとえば、推定される損傷の原因、進行性についての評価、当該損傷に対する判定の根拠とその考え方などを記述しておくなどの使い道を想定しています。


データ記録様式(その9) 損傷図		径間番号		○○		起点側		緯度 経度		○○○○ ○○○○		終点側		緯度 経度		○○○○ ○○○○		橋梁ID		○○○○	
フリガナ 橋梁名		マルマルレバン ○○橋		路線名		県道○○		管理者		○○県○○振興局○○土木事務所		橋梁コード		○○○○		○○○○		○○○○		○○○○	
<p>損 傷 図</p>																					

データ記録様式(その10) 損傷写真										径間番号		〇〇	
フリガナ 橋梁名		マルマルパン 〇〇橋		県道〇〇		管理者 〇〇県〇〇振興局〇〇土木事務所		橋梁コード		〇〇			
カメラの性能		機種		画素数		明るさ		判読レベール(mm)					


写真番号		1		径間番号		〇〇		写真番号		2		径間番号		〇〇		写真番号		3		径間番号		〇〇	
部材名		主桁		要素番号		〇〇〇〇		部材名		横桁		要素番号		〇〇〇〇		部材名		支承		要素番号		〇〇〇〇	
損傷の種類		ひびわれ		損傷程度		○		損傷の種類		うき		損傷程度		○		損傷の種類		腐食		損傷程度		○	
				前回損傷程度		○						前回損傷程度		○						前回損傷程度		○	








写真番号		4		径間番号		〇〇		写真番号				径間番号			
部材名		支承		要素番号		〇〇〇〇		部材名				要素番号			
損傷の種類				損傷程度		○		損傷の種類				損傷程度			
				前回損傷程度		○						前回損傷程度			



落橋防止装置の設置により近接不可能



損傷写真

[illegible]

[illegible]

定期点検記録様式(その4) 部材番号図及び要素番号図		径 間 番 号		〇〇		起 点 側		緯 度 経 度		〇〇〇〇 〇〇〇〇		終 点 側		緯 度 経 度		〇〇〇〇 〇〇〇〇		橋 梁 ID		〇〇〇〇	
フリガナ 橋 梁 名		マルマルレバン 〇〇橋		路 線 名		県道〇〇		管 理 者		〇〇県〇〇振興局〇〇土木事務所		橋 梁 コー ド		〇〇〇〇							
部 材 番 号 図 及 び 要 素 番 号 図																					

定期点検記録様式(その5) 状態把握の方法		径 間 番 号		〇〇	
フリガナ 橋 梁 名	マルマルハシ 〇〇橋	路 線 名	県 道 〇〇	起 点 側	終 点 側
		管 理 者	〇〇県〇〇振興局〇〇土木事務所	緯 度 経 度	緯 度 経 度
				〇〇〇〇 〇〇〇〇	〇〇〇〇 〇〇〇〇
				橋 梁 ID	
				〇〇〇〇	

近接目視による状態の把握が不可能な箇所

部材名	部材番号	要素番号	不可能な理由	対応策
支 承	〇〇〇〇	〇〇〇〇	落橋防止装置が設置され、桁端部及び 沓座に近接し、目視確認できない。	沓座は周辺状況等から判断できないため、CC Dカメラにより状況を確認する。

○近接目視又は打音、触診ができない箇所を記載する。現状の評価、日常の維持管理での注意点を記載する。